

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 columns: 事業所番号 (0170202824), 法人名 (有限会社 アドスコミュニティーズ), 事業所名 (グループホーム ポブラ), 所在地 (北区新川3条4丁目8-40), 自己評価作成日 (令和6年1月20日), 評価結果市町村受理日, 令和6年3月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当施設で力を入れている部分は高齢になり認知症を持つ利用者様が第二の住みかとして看取りまで行っている所です。又、他施設での受け入れが出来なっ方利用者さんも全力でボブラ職員が関わり落ち着て過ごせるようになるなど、病院側からも信頼を頂いております。利用者さんの場所の変化、環境の変化を最小限にする事により顔なじみの関係が出来た職員や他利用者様が居る環境の中で、最期まで安心して暮らせるよう職員の入れ替えも少なく、利用者様は安心して生活出来ていると思います。ご家族様からも退所後ボブラさんで最期を迎えられて良かったですと多くの言葉を頂き支援している側としても大変嬉しい事です。もう一つは職員の入れ替えが少ない。職員の人間関係が良好の上、管理者間職員間の中で良い関係性を構築出来ている、働きやすい環境になるよう代表始め施設長、管理者は職員の声に耳を傾け可能な限り希望を叶えられているからこそ賃金は高くはないが在籍して頂けている結果に繋がっていると思っています。利用者様を初めご家族との関係性にも力を入れています。情報の共有、報告、連絡、相談等、細かい事からご家族様に連絡もしくは面会時に伝達するよう心掛けています。信頼関係がないと誤解を生じる事や不信に繋がる事からその不安や不満に繋がらないよう努めております

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

Table with 2 columns: 基本情報リンク先URL, https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kihon=true&JigyosyoCd=0170202824-00&ServiceCd=320

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 columns: 評価機関名 (特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット), 所在地 (札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401), 訪問調査日 (令和6年2月13日)

事業所は、最寄りのJR駅の西側にある文教地区に位置し、幼稚園、小学校、中学校、公園、スーパー等がある住宅街に立地している。近くには桜の名所があり、利用者で見物しながら春の訪れを感じる機会となっている。徐々にコロナ禍以前の生活に戻っており、今後に向けて子供達や地域との交流を検討している。暖かい日は、隣近所の庭を眺めながらの散歩で住民と挨拶を交わし、新鮮野菜や花を買って事業所に戻っている。運営推進会議のメンバーからも常に温かい言葉掛けがあり、代表者は感謝の意を表している。2名の管理者が喀痰吸引実施の有資格者であり、緊急時の対応が可能になっている。利用者の「居心地が良いので ずっとここに居たい」などの意向を受け入れ、最期まで尊厳ある支援に努めている「グループホームポブラ」である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55まで日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

Large table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 56-62 contain evaluation data for various service aspects.

自己評価及び外部評価結果2F

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者、職員は介護理念を理解し共有し利用者が安心して暮らせるよう支援している	介護理念には代表者の思いが込められており、職員は十分に理解して実践で示している。役職者は、会議等で理念はケアの原点であることを教え導いている。さらに、職員の総意を反映した年間目標を掲示している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	代表、管理者中心に地域との交流を行っているがコロナが5類に移行すまでは施設出入りも控えとり、ようやくここ最近当施設で運営推進会議を行えるようになった	地域情報は、町内会長から得られている。町内会の総会に出席や清掃活動に参加、資源物回収の協力、子供避難場所の登録など、地域住民として関わっている。幼稚園や小学校、中学校、ボランティアとの交流を検討している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や町内の会議に出席時認知症の理解や支援についてお話する機会には体験談や知識をお伝えする事もある		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者様のサービスや評価や取り組みについて困難事例含め報告、アドバイスを頂く等意見をサービス向上に活かしている	会議には、複数の町内関係者と地域包括支援センター職員、家族をメンバーとして、毎回参加の要請をしている。運営に関しての案件に対して意見や提案、情報等が得られ、参考にしたり実際に取り入れるなど、有意義な時間帯になっている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者とは代表、施設長が主に連絡を取り困ったときは相談しながらケアのサービス向上の為に取り組みをしている	運営や利用者に関する案件の解決に向けて、代表者と施設長は各部署の担当者と意見や情報交換を行っている。介護保険認定調査員やケースワーカーの来訪時は情報を提供し、利用者の安定した生活を支えている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	代表始め全ての職員が身体拘束に関して理解しており、定期的に勉強会を実施している	身体拘束の適正化については、指針を踏まえ定期的に委員会や研修会を開催し、職員の共通理解を図っている。禁止の対象となる11項目やグレーゾーンの事例等を学び、ケアに生かしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者や職員は高齢者虐待に関して研修へ参加している他事業所内で虐待に当たる行為が存在していないか常時情報共有し防止に努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者が主となり成年後見制度について学んでおり利用者様が困っている際は現状活用している利用者様もおります		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時十分に説明を行い不安や疑問を解消出来るように努めています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に意見や要望を聞くように声掛けを行っている。要望や意見を取り入れ運営に反映させている	家族には毎月、ポブラ便りと一緒に個別の写真にコメントを付けて郵送し、好評を得ている。家族から「歩かせて欲しい」との要望があり、毎日外に出る機会を作るなど出来る限り利用者や家族の思いに応えている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表始め管理者と職員間には良好な関係性が出来ているので職員からの意見も頻繁に出る他提案を反映させている	職員は、利用者と日常を共にすることで信頼関係を築いており、些細なことにも気づくことができ、上司に報告や相談ができています。役職者は、職員が安定感を持って業務を遂行できる環境を整備している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表、管理者は職員個々の実績、勤務状況を把握しており、昇給への対応、やりがいや向上心を持って働く事が出来るよう日々環境整備、条件の整備に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員に合った研修の呼びかけ、参加を促し個々の力量に合わせたトレーニング出来るよう進めている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	毎月他施設との合同勉強会を実施し同業者と交流する機会を設けている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に利用者様が不安に思っている事、困っている事を確認する他ご家族様にも聞き取りを実施し、入居後不安な部分等にも注意し安心出来るよう関係作りに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前のヒヤリングにてご家族様が困っている事、要望等を聞き取りしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時他のサービスの利用も視野に入れ本人が必要としている物を把握し支援に当たっている		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	1人1人の力量を見極め出来る事は一緒にして頂くようお客様にならないよう一緒に活動出来るよう努めている		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様には積極的に巻き込みながら何が一番かご家族様と一緒に利用者様を支えるという意識を年頭に関係作りに努めている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居時には交友関係、親族、外出、外泊出来る旨をお伝えはしているものご家族以外あまり面会に来られていないのが現状です	春先から居室での面会ができており、利用者や家族が久しぶりにゆっくりと話を交わしている。家族の支援で墓参りや外出、外食等が行われている。利用者と一緒に写真やアルバムを見て忘れていた家族の名前が言えた事例がある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご自分のペースで過ごして頂いています、一人ひとりが孤立しないようフロアにはだいたい皆様過ごされる事が多いので部屋で一人で過ごした時は自由に休んで頂いております		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後、お亡くなりになった後もご家族様と連絡をとる機会もあり、年賀状のやりとりを継続させて頂く事もありアフターケアも必要に応じて頂いております		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	なかなか自分でこうしたい等希望が出てこない為本人本位に考えるもしくはご家族様に意見を聞く等し施設での過ごしたか等希望を聞きながら反映させている	職員は、居室を担当している利用者にはより深く関わりを持っているが、全ての利用者の全体像を常に気に掛け、会話や仕草、二者択一から根底にある思いの汲み取りに努めている。「居心地が良いのでここに居たい」などの意向を家族から伝え聞いている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴のヒヤリングは入居時、入居後面会時等お話する時間がある際は聞き取りし把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の心身の状態に応じてその日その日で過ごし方を利用者様のペースに合わせている		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回ケースカンファレンスを行い利用者様の現状の課題について意見交換、情報共有を行い介護計画作成に活かしている	職員は、日頃から利用者の心身の状態に注意を向け記録に残している。定期見直しや状態に変化が生じたときは、職員間で現プランの評価や課題を掘り出し、現況に沿った支援目標を設定している。利用者や家族の意向を十分尊重した内容になっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人ケース記録他特変事項は業務日誌に記入し全職員が情報共有出来るようそれをもとに介護計画の見直しに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族様の状況の把握も聞き取り時把握しており、その時々生まれるニーズに合わせて柔軟に対応出来るよう努めている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を活用することにより当施設の認識に繋がるよう積極的に活用している		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診医を入れながらいつでも安心して頂ける環境を作ってる。必要に応じて提携病院の紹介も行っている	月2回協力医による往診と週1回歯科医の訪問診療、週1回訪問看護師による健康管理体制を整備している。協力医以外は家族対応だが、緊急時は職員が外来受診に同行しており、それぞれの診療結果を共有している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	管理者を始め利用者様の変化に迅速に対応出来るよう関係性を構築出来ている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者様が入院した際は情報の共有に努め早期退院に向け医療と連携し相談しながら医療関係者との関係作りにも努めている		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に一度看取りのお話を行っている他適時に再度医師を含め今後の話し合いを行い事業所で出来る事を十分理解された上で方針を共有し関係者とチームで支援に取り組んでいる	入居時に医療連携体制と終末期の対応を指針で説明し、同意を確認している。段階的に主治医から容態の推移を職員、家族に伝えており、態勢が整った時点で最終ケアプランに沿って尊厳ある支援に取り組んでいる。家族からは、心からの感謝の言葉が寄せられている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時のマニュアルがある他職員全員急変時の対応、事故発生時に備え手順を伝達している。実践に身についている		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練と共に災害時の避難方法等訓練を行っている。近隣との協力体制が築けている	避難訓練は新人職員を優先して年2回を計画し、どちらか夜間帯に地震後の火災発生を想定している。また、水害危険地域であるため1階から2階に移動する訓練も、利用者参加で実施している。近くの住民の協力も得られている。	ボイラー不具合により暖房が中断した事例があったが、ポータブルストーブなど備品を活用して乗り切っている。さらに今後は夜間や冬期での1次避難場所から先の避難場所の確認と家族に周知、入浴時などケア場面での対処などの、さらなる取り組みに期待する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声掛けには十分注意を払い誤った言葉使いをしている職員にはその場で注意している	職員は、入社時や毎年の接遇研修で利用者が不快にならない支援のあり方を学び実践に努めている。入浴や排泄時は羞恥心に配慮した支援に努めているが、ふとした言葉や態度が適切でないときは、上司が注意喚起を促している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定出来る利用者様には選択して頂く事や自己決定出来ない利用者様には本人本位で考え支援している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様優先は勿論一人ひとりのペースを大切にその日1日本人のペースに合わせ経過して頂いている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	オシャレが出来るかどうかは判断難しいが行事の際口紅、髪飾りをする等毎日ではないが実施している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	家事活動出来る利用者様には一緒に食器拭きや盛り付け等行ってもらっている	無農薬や低農薬等の食材を使い、栄養バランスや彩りに配慮した食事がテーブルを賑わしている。お節料理の餅はきりたんぼで代用し、時には出前寿司を取り、外食に出かけ、菜園のキュウリなど採れたて野菜を活用するなど、食の楽しみに繋げている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べれる量の把握、好む食べ物や飲み物を把握し水分量が確保出来ている他習慣に応じた健康食品の継続が出来るよう支援している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの実施、定期歯科受診にて指導を受け日々のケアに実践に活かしている		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々に合った排泄パターンを把握し、ぎりぎりまでトイレに行く事を大切に支援している	排泄は、ベッド上での交換もあるが、自力排泄者の見守り、声掛け誘導を行いながら、可能な限り布下着の着用やトイレでの排泄を基本として支援している。職員の努力により必要最低限の衛生用品に至った事例がある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	1日の水分量の確保に努める他毎朝豆乳提供の他ヨーグルトの提供を実施。慢性便秘の方は下剤を服用している方も多いです		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	その日の体調や気分に応じ週2回入浴できるようその日その日に声掛けを行っている	毎日入浴できる態勢だが、午後に週2回を基本に湯加減や回数、同性介助、午前の入浴など要望に応じて支援している。足湯をしてのシャワー浴は浴槽から湯を掛け冷え対策をしたり、移乗プレートを使用して湯船に浸かることができている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休息したい時に休息出来るよう体調やその人の生活リズムに合わせて支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服用している薬の内容はおおむね把握している。すぐに確認出来るよう薬辞書は置いている。薬のお副作用に該当した症状がないか確認に努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	趣味や創作、楽しみ事を取り入れ気分の転換が出来るよう支援している。居室で音楽を聞く等		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近くのスーパーに買い物へ行く等夏は積極的散歩にでて気分の転換を図っている。ご家族様とも外出する機会がある	暖かい日は、近所の花々を眺めながらの散歩、菜園の野菜の水やりや食べ頃のトマトを口に入れたりなど、外気に触れる機会がある。気分転換も兼ね季節を感じられるよう近くの桜並木や紅葉を観賞、時には外食に出かけている。家族の外出支援も得られている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が難しくなり入居されてくる為ご本人に預けるお金の金額も少なくして頂きあとは施設側で管理している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	友達に電話する等形態電話を持ち込み可能にしている。手紙のやり取りが出来る利用者様が現状少ない		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビの音量や職員の話声の大きさ等大きい時は注意している。照明や室内の温度、湿度は常時見ながら調整している	利用者は居間に居ることが多く、ゆっくりと安心して過ごせる居住環境を整えており、その中でテレビや新聞を見たり、パズルで脳トレ、お喋りなど利用者のペースで過ごしている。四季折々のイベントでは、飾り物を施し行事食を楽しんでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間の中でも一人でテレビを見たりパズルをしたりと思い思いに過語されている		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れた家具、寝具が持ち込み出来るよう契約時にお話している。本人が快適に過ごせるよう工夫している	約6畳ある居室には備え付けのクローゼットや窓際にカウンターがあり、収納や置台として活用している。利用者は、持参の生活用品や仏壇、趣味のハーモニカ、写真等に囲まれ音楽を聴くなど、穏やかな生活環境になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所や居室には名称、名前が分かるよう貼ってあり場所に困らないよう工夫を行っている		